

新たな「国土のグランドデザイン」

平成26年5月19日
太田国土交通大臣提出資料

- 2050年を視野に入れ、今後の国土づくりの理念や考え方を示す新たな「国土のグランドデザイン」の「骨子」を3月に公表。本年夏頃に取りまとめ予定。
- 今後の国づくりにおいては、本格的な人口減少社会の到来などの時代の潮流を踏まえる必要。
- 地域が消滅する危機、巨大災害による国家衰亡の恐れという危機に手を打っていく必要。
- 第一の基本戦略は「コンパクトな拠点とネットワークの構築」。地域活性化にとって極めて重要。

【時代の潮流】

(1) 急激な人口減少・少子化、高齢化

- ・約6割の地域で人口が半減以下に、うち1/3の地域は人が住まなくなる

(2) グローバリゼーションの進展

- ・国家・都市間の競争が激化

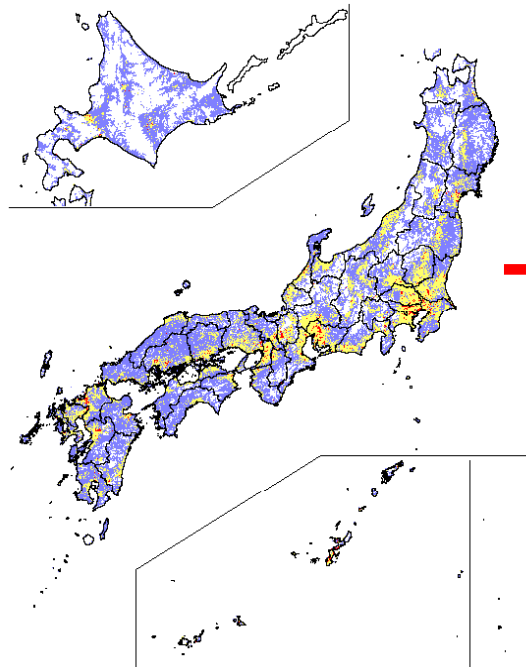
(3) 巨大災害の切迫、インフラの老朽化

- ・首都直下地震、南海トラフ巨大地震の切迫
- ・高度成長期以降のインフラが老朽化

(4) 食料・水・エネルギーの制約、地球環境問題

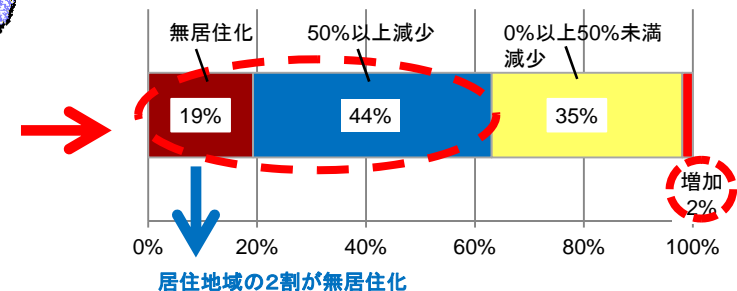
(5) ICTの劇的な進歩など技術革新の進展

【2010年を100とした場合の2050年の人口増減状況】



【人口増減割合別の地点数】

6割以上(63%)の地点で現在の半分以下に人口が減少



凡例：2010年比での割合

- 50%以上減少(無居住化含む)
- 0%以上50%未満減少
- 増加

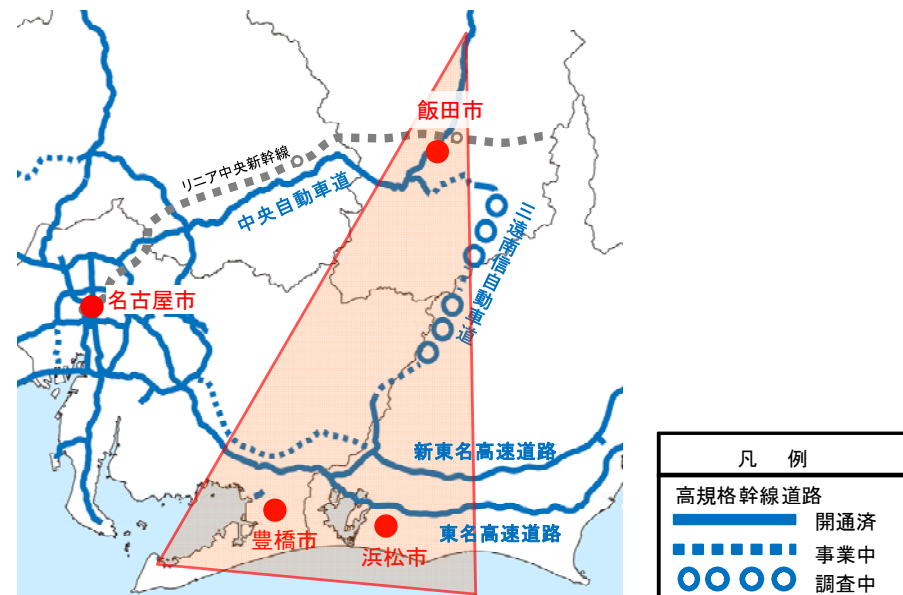
- 多様性を持った地域の連携と新しい集積を実現するため、拠点とネットワークが重層的に重なる力強い国土構造を目指す。
 - 〔・日本海・太平洋2面活用型国土
 - 〔・スーパー・メガリージョン・・・リニア中央新幹線により首都圏・中部圏・近畿圏が一体化した拠点(1時間圏内)
- 「コンパクトシティ+ネットワーク」の考えの下、都市をコンパクトにして機能を集約する。高速交通ネットワーク整備などで都市間を結び、ゾーン全体の地域活性化を目指す。

【高速交通ネットワークの整備状況】



【三遠南信地域における機能連携】

三遠南信地域の道路ネットワークを強化することで、三河港などの物流拠点を有する沿岸部と、農業、製造業等の産業拠点を結びつけ、ゾーン全体として産業を活性化



- 人口が減少に転じる中、拡大した都市のコンパクト化が必要(例:富山市)。具体的には、
 - ・ 医療・介護、商業等の生活サービス機能と居住を、まちなかに誘導する。
 - ・ 拠点間を結ぶ公共交通を再構築(LRT、コミュニティバスなど)し、その充実を図る。
- 地場産業や観光資源などのそれぞれの都市の個性を最大限に活かし、個性豊かな地域づくりを進める。

コンパクトなまちづくり

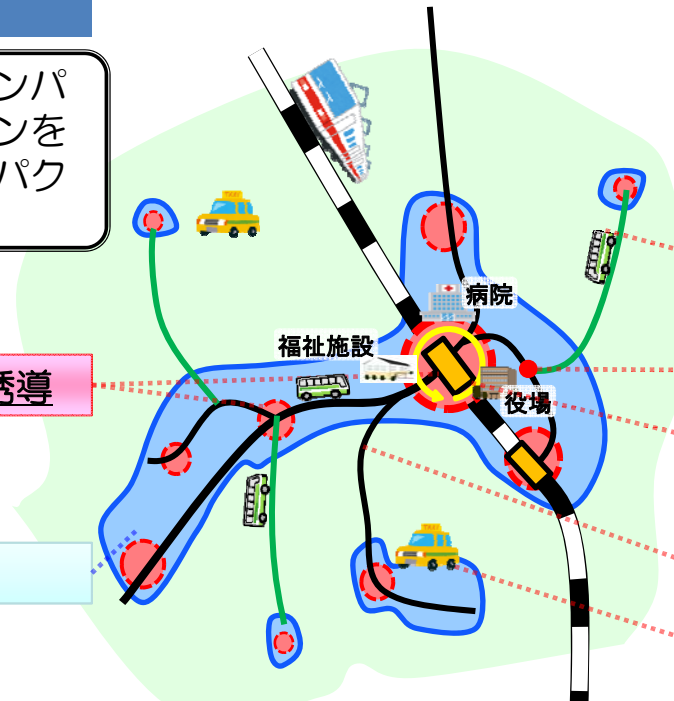
市町村が都市全体の観点から、コンパクトシティに向けたマスタープランを作成(複数市町村による連携コンパクト化の促進)

生活サービス(福祉・医療・商業等)の誘導

居住の誘導

地域公共交通の再編

地方公共団体が中心となって、まちづくりと連携し、面的な公共交通ネットワークを再構築



- ・ コミュニティバス等によるフィーダー(支線)輸送
- ・ 乗換拠点の整備
- ・ 拠点エリアにおける循環型の公共交通ネットワークの形成
- ・ 拠点間を結ぶ交通サービスを充実
- ・ デマンド型乗合タクシー等の導入

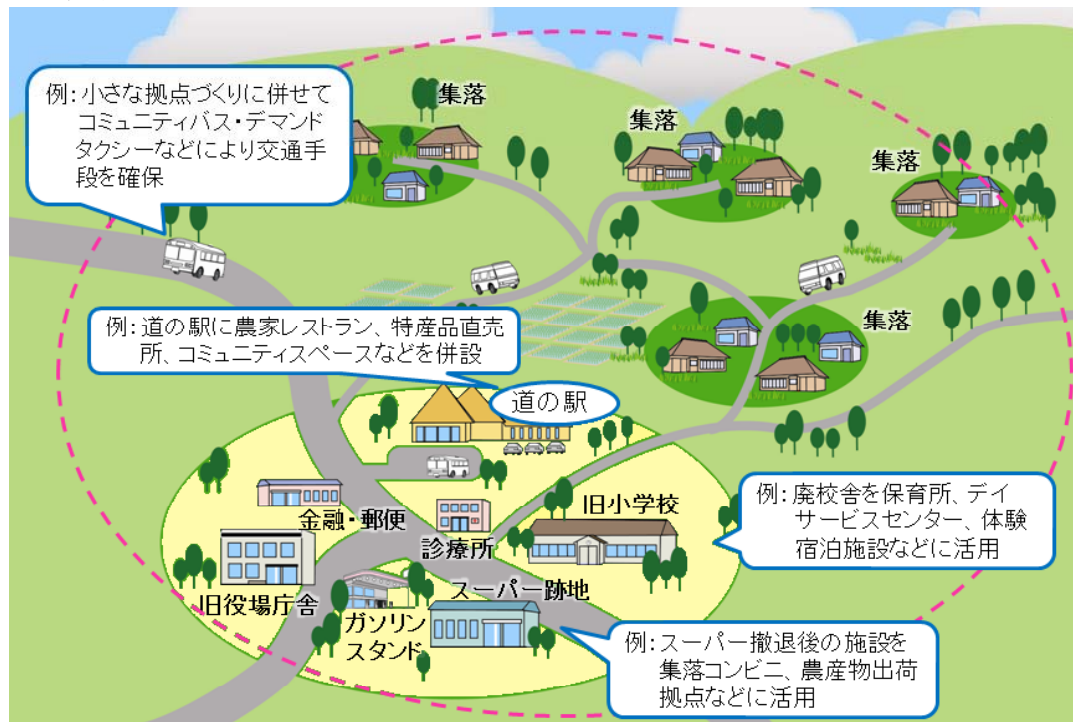
今国会で、都市再生特別措置法等と地域公共交通活性化再生法の改正法が成立

計画を着実に実現するための支援方策の充実を検討

- 中山間地は国土管理上も重要な地域。そこに人が住み続けることが大切。
- このため、商店、診療所などを歩いて動ける範囲に集めた「小さな拠点」を形成し、周辺集落との交通ネットワーク(デマンドバス)を構築。
- また、6次産業機能を充実。「小さな拠点」を日常生活の「守りの砦」とするだけでなく、雇用を生み出す「攻めの砦」に。

■「小さな拠点」を核としたふるさと集落生活圏の形成促進

…複数の集落が散在する地域において、持続可能な地域づくりを推進



- ・小さな拠点…商店、診療所等の日常生活に不可欠な施設や、地域活動を行う場を、歩いて動ける範囲に集めた地域の拠点
- ・ふるさと集落生活圏…「小さな拠点」と周辺の集落とをコミュニティバス等で結んだ圏域

■暮らしに必要な機能を「道の駅」に設置



農産物等販売所 診療所
町役場出張所 集会所兼避難所
たきのはいたろう こそがわ ちょう
【 「瀧之掾太郎」(和歌山県古座川町)】

■地元農産物を「道の駅」で加工し、18種類の新商品を開発、販売



もてぎ まち
【 「もてぎ」(栃木県茂木町)】

- 地域経済を支える産業の活性化や交流人口の増加を目指す。
- 例えば、地域の「見るもの、買うもの、食べもの」の魅力を発信して、国内外の観光客をさらに地域へ呼び込み、地域社会を活性化。

オリンピック・パラリンピックの開催効果の地域への波及

- ・2020年オリンピック・パラリンピックの開催効果を東京のみならず広く地域に波及させるため、観光客を地方へ誘客するための施策を充実させる。
- ・聖火リレーや文化プログラム、事前合宿、他の国際大会等との連携により、各地域に国内外から観光客を誘客する。

現在の主要な訪日ルート
 ○首都圏空港から入国
 ○ゴールドルート中心の周遊



○首都圏空港イン・アウト
 + 周遊
 ○首都圏空港イン(アウト)
 + 地方アウト(イン)
 ○地方イン + 地方アウト

地域連携による情報発信力強化と新たな広域周遊ルートの形成

- ・東京周辺やゴールドルートなど訪日外国人の需要が集中している地域以外の需要を創出するために、地域間の広域連携を強化し、ストーリー性やテーマ性に富んだ多様な広域周遊ルートを開発・提供する。
- ・地域の力を束ねて情報発信力を高め、海外に発信する。
- ・北陸新幹線（長野・金沢間）や北海道新幹線（新青森・新函館間）の開通により、首都圏等とのアクセス時間が大幅に短縮されることを最大限活用し、国内外の観光客を呼び込む。

昇龍道〈例〉

- ・中部・北陸9県を跨るエリアで、能登半島を龍頭に見立て、中華圏に人気の龍をモチーフとした「昇龍道」として、一体的なプロモーションを実施。



「見るもの、買うもの、食べもの」の情報発信の強化

- ・地域の「見るもの、買うもの、食べもの」の情報発信を強化する。

外国人旅行者のための受入環境整備等

○無料公衆無線LAN環境の整備促進

- ・総務省と連携し、無料公衆無線LAN環境の更なる整備促進や海外への情報発信等を進める。

○地域における免税店の拡大

- ・本年10月より全ての品目が免税対象品目となる。本制度を海外に広く周知するとともに、各地域の免税店の増加等に取り組む。



国内外の観光客を呼び込む観光地域づくり

- ・地域の魅力ある観光資源を磨き上げ、国内外の観光客を取り込み、地域活性化に結びつける観光地域づくりを実現する。



外国人観光客でにぎわう古い町並み
 (岐阜県高山市)



阿波の自然を堪能する外国人観光客
 (徳島県三好市)